

2010年度第2回BEAT Seminar

ソーシャルメディアを使った 外国語教育

金沢大学 山田政寛(やまだ まさのり)
mark@mark-lab.net
http://mark-lab.net
http://www.rche-kanazawa-u.jp/

山田政寛(やまだまさのり)

- 金沢大学 大学教育開発・支援センター 准教授, Ph.D
 - 教育工学、特に協調学習支援に関する研究をしています
 - CMCを使った協調的外国語環境の設計
- BEATでは外国語教育に関するプロジェクトに従事していました

なりきり

English!

CONOMI+

いろんなソーシャルメディア



ソーシャルメディアを使った外国語教育で
考えるべきこと

第二言語習得の認知プロセス支援

インフォーマル
コミュニケーションの支援

第二言語習得の認知プロセス支援

第二言語習得の3要素

インプット
(Krashen, 1985)

インタラクション
(Long, 1981など)

アウトプット
(Swain, 1995など)

第二言語学習の認知プロセス (Ellis, 1986, 村野井, 2006)

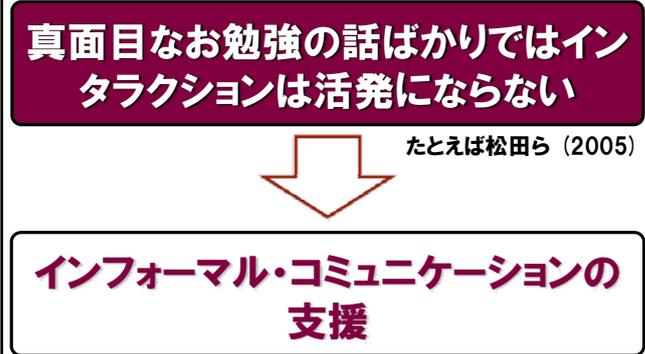


第二言語学習の認知プロセス (Ellis, 1986, 村野井, 2006)



**インフォーマル
コミュニケーションの支援**

インタラクションをどう活発化させるか



社会的存在感 (Short et al, 1976)

「使用しているコミュニケーションツールにおいて、コミュニケーション中に感じる相手の存在感の程度」

しかし、情報技術の発展や研究者の立場などで見方が変わり、様々な社会的存在感概念が出てきている (山田・北村, 2010)

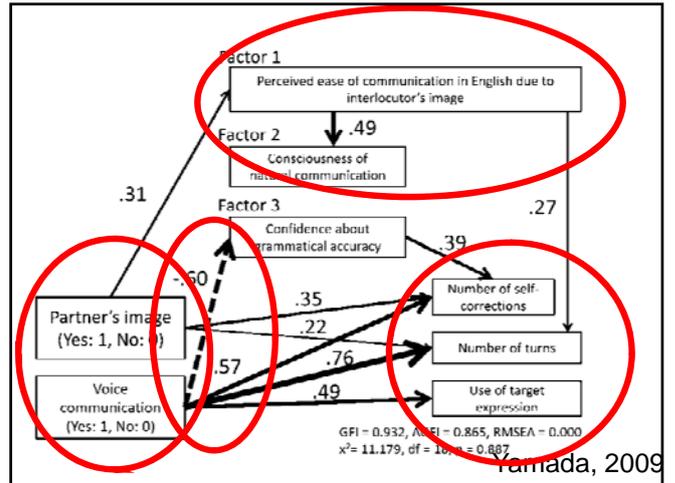
代表的な研究者	重視する点	測定の指針	定義
Shortら	メディアの特性	受容するもの	他者との相互作用において(受容される)他者の顕現性(Salience)の程度、またその(相互作用の)結果として起こる対人関係の顕現性の程度 (Short et al, 1976)
Gunawardena, Tuら	相互作用の状態とその学習者の認識		媒介しているコミュニケーションにおいて相手を「現実」に目の前にいる」と感じられる程度 (Gunawardena and Zittle, 1997)
Garrisonら	学習者の能力・行為	表現するもの	使用しているコミュニケーション媒体(非同期が前提)を通じて、探求の共同体(Community of Inquiry)において実際にその場にいる人間のように社会的に、且つ感情的に自己投影できる能力 (Garrison et al, 2000)

社会的存在感を引き上げるポイント

- 自己開示
- 仲間のような感覚
 - ニックネームで呼び合う
- 挨拶、感謝の表現
- グループメンバーの発言を引用する
- 絵文字の利用

など

Garrison et al, 2003



ソーシャルメディアを使った学習で考える点

- 何を目標とするのか
 - 本気でやるまでの接続点 or マスターリー
- 継続的なコミュニケーションのために
 - 仲間意識、コミュニティの所属感 (Sense of Community) をどう高めるか
 - 相手との立場、心理的距離感をどう考えるのか (e.g. Lee, 2002)
- 学習・認知プロセスの支援をどうするか
- 「ガチガチ」の学習をさせない意識やデザイン
 - とはいえ「ダラダラ」させない仕組みもある

最後になりますが



- 山内祐平(編)
- 4章 第2言語習得での活用を担当
- 社会認知的アプローチによるCMC利用の実践など

Reference

Ellis, R (1986) Understanding second language acquisition, Oxford: Oxford University Press

Krashen, S. (1985) The input hypothesis: issues and implications, Harlow, Essex: London House, UK

Long, M. (1981) Input, interaction, and second-language acquisition, Annals of the New York Academy of Sciences, 379, 256-278

松田岳士・齋藤裕・山本恵美・加藤浩, 同期型CMCにおける学習課題に関するディスカッション成立過程, 日本教育工学会論文誌, 29(2), 133-142

村野井仁 (2006) 第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法, 大修館書店, 東京

Swain, M (1995) Three functions of output in second language learning. In G. Cook & B. Selhofer (Eds.) Principles and practice in applied linguistics: Studies in honour of H.G. Winddowson (pp. 135-144). Oxford: Oxford University Press

Yamada, M(2009) The Role of Social Presence in Learner-centered Communicative Language Learning Using Synchronous Computer-Mediated Communication: Experimental Study, Computers & Education, 52(4), 820-833

山田政寛・北村智 (2010) CSCL研究における「社会的存在感」概念に関する一検討, 日本教育工学会論文誌, 33(3), 353-362

ご質問はお気軽に

mark@mark-lab.net
http://mark-lab.net